



学校教育目標 「心身ともに健康で、個性豊かな実践力のある子どもを育てる」

～ 固いさつ ぞうじ へんきょう 「あそべ」をがんばろう ～ いじめをなくそう ～

◇1年間ありがとうございました◇

校庭に降り注ぐ柔らかな日差しと、頬に感じるあたたかな風に春の訪れを感じるようになりました。明野小学校の子どもたちは、この1年間、多くの学校行事や児童会行事等を通して大きく成長してきました。また、わからないことを教え合ったり、お互いの考えを認め合ったりして、学び合うことの楽しさも味わってきました。4月には新しい1年生を迎え、学年が1つ上がります。自分や周りの仲間を大切に、これまでに培った力をさらに大きく伸ばして行ってほしいと願っています。

保護者、地域の皆様、この1年間、明野小学校の教育活動に、ご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。そして、令和2年度は、明野小学校は全児童が666人でスタートします来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

◇卒業式 ～新たな旅立ち～◇ 3月19日(金)

本年度の卒業式は、新型コロナウイルスの影響で、来賓や地域の方々、在校生のいない卒業式になりました。卒業生と保護者、教職員だけの卒業式でしたが、心のこもったあたたかな雰囲気の中で、卒業生一人ひとりがしっかりとした態度で、卒業証書を受け取ってくれました。学校長式辞の中では、大きな夢や希望に胸をふくらませ、いつも人を思いやる「優しい気持ち」や「温かい言葉」を忘れず、充実した中学校生活を送る事を願って、現在、絵本作家として活躍する小泉吉宏さんが作った『一秒の言葉』という詩を引用してお祝いの言葉を贈りました。



その後、卒業生の心を込めた呼びかけと歌声が会場に響き渡りました。胸を張って退場する卒業生の表情には、卒業式に向けての練習が十分にできなかったにもかかわらず、最後までやり遂げた充実感と、これから大きな夢に向かうしっかりとした決意を感じました。参加した全ての人の心に、思い出に残る感動を残して式は終了しました。卒業生の皆さん6年間、よく頑張りました。そして今まで本当にありがとうございました。卒業式での式辞は次の通りです。

令和元年度明野小学校卒業式 式辞 — 卒業生の皆さんへ 『一秒の言葉』

校庭の木々に新しい芽が伸び、私たちの明野小学校にも、春の息吹が感じられるようになりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。校長先生と皆さんとは、この3年間、一緒に明野小学校で過ごしました。4年生になりたての頃の皆さんの姿を思い浮かべると、心も体もずいぶん大きく成長しました。皆さんの成長を見ながら、校長先生はこの3年間、集会で「挨拶」「掃除」「勉強」の3つを頑張ることと、もう一つ「いじめ」をなくすということをしてきました。たくさんの人と生活する学校では、友だちとの仲がうまくいかないことや、思い通りにならないことがよくあります。そんな時、皆さんにはいつも人を思いやる「優しい気持ち」や「温かい言葉」を大切にしてほしいと言ってきました。今日はそんな「友だち」や「言葉」の話をしていきたいと思います。校長先生の話は少し難しいかも知れませんが、頑張ってください。

皆さんのこれまでの学校生活の様子を見ると、授業態度も落ち着いて、色々なことに真面目に取り組んできました。一人では出来ない事は協力し合ったりして、とても力のある学年でした。一方で、皆さんはこれまで、人と考えが違って

いたり、どうしても上手く気持ちが伝わらずにケンカをしたり、色々な言葉に傷ついたり、色々なグループができて、自分がどうしたら良いのかわからなくなったりして、友達関係がもつれてしまうことも多かったのではないのでしょうか。

人は誰でも 本当はたくさんの友達が欲しいと思っているし、誰からも好かれたい、認められたいと思っていると思います。皆さんも人から好かれるために、自分をよく見せようとしていたり、逆に目立たないように、嫌われないようにと、人と同じ振る舞いをしたりすることはありませんでしたか？友達に好かれようとか、嫌われないようにとか、心の中で一生懸命考えているうちに、なんだか疲れてきて「これは本当の自分じゃないな」とか、「うその自分であるより、一人でいるほうが楽だな」と、考えるようになったことはありませんでしたか？ひょっとすると、人に好かれたい、嫌われない、という思いが、かえて自分を本当の自分でなくしているのかもわかりません。

本当の自分でない自分に本当の友達ができるのでしょうか？自分で自分を認めていないのに、人から認められるのでしょうか？心のこもっていない言葉ばかりを並べてやさしいふりをして、本当の友達はできません。だからいつも人を思いやる「優しい気持ち」や、心のこもった「温かい言葉」を大切にしてほしいという事なのです。

校長先生は「言葉」は、一つ一つに心を込めて使うものだと思っています。皆さんに「言葉」をテーマにした詩を一つ紹介したいと思います。それは、今から35年前の1985年と2008年にたった2回だけ テレビのCMで流された詩です。一度、学校だよりも掲載しましたが、現在、絵本作家として活躍する 小泉吉宏さんが作ったとても有名な『一秒の言葉』という詩です。道徳の教科書にも取り上げられたことのある、このとても短い詩に、人が様々な心や、思いを込めていることが感じられる作品です。全文はこんな詩です。

『一秒の言葉』 (小泉吉宏)

「はじめまして」 この一秒ほどの短い言葉に 一生のときめきを感じることもある。

「ありがとう」 この一秒ほどの言葉に 人のやさしさを知ることがある。

「がんばって」 この一秒ほどの言葉で 勇気がよみがえってくることがある。

「おめでとう」 この一秒ほどの言葉で 幸せにあふれることがある。

「ごめんなさい」 この一秒ほどの言葉に 人の弱さを見ることもある。

「さようなら」 この一秒ほどの言葉が 一生の別れになるときがある。

一秒に喜び 一秒に泣く 一生懸命 一秒 . . . こういう詩です。

6年前の入学式、「はじめまして」で始まった皆さんの小学校生活。それからの6年間、友達の「ありがとう」「がんばって」「おめでとう」の言葉に、やさしさや勇気を与えてもらいました。本当に悪いなあと思ったときは、「ごめんなさい」の一言で仲直りをしました。本当の友達とは、こういった心のこもった素直な言葉があればつながっていくのではないのでしょうか？

そして今日、「さようなら」という言葉とともに、明野小学校を卒業していきます。この「さようなら」の言葉に皆さんは、寂しさや悲しさではなく、素晴らしい友達や、かけがえのない人たちとの出会いに感謝する気持ちと、未来への決意を込めてほしいと思います。これからたくさんの友達や先生、先輩と出会います。皆さんの未来はまだまだ続きます。誰に対しても、「心のこもった一秒の言葉」を忘れず、本当の友達を見つけて、それぞれの学校で楽しい中学校生活を送ってください。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。お子様が立派に成長されたことを心から、お慶び申し上げます。中学校時代はもっとも多感な時期となります。悩んでいても何も話してくれなかったり、親の思いとは違う方向に歩んだりすることもあります。子どもを信じ、子どもがしっかりと考え、決めたことであればさりげなく見守り、必要なときはそっと手を差し伸べるようにすると、子どもは安心して生活が送れるといえます。お子様を立派な中学生にお育て下さい。長い間、本校へのご理解とご協力に 感謝を申し上げまして、式辞といたします。

◇修了式・離任式◇ 3月25日(水)

初めに1年生から5年生までの子どもたち全員の進級認定を行いました。4月からそれぞれ1学年ずつ上がります。より一層「挨拶」「掃除」「勉強」に力を入れるとともに、いじめをなくし、友だちを大切にしていってほしいと思います。そしてその後の離任式では、本年度をもって明野小学校を去られる先生方の離任式を行いました。去られる先生方から子どもたちにお別れの言葉をいただきました。4月からは新体制で明野小学校がスタートします。詳しい転出入につきましては、4月の学校だよりでお知らせします。